

男女差別是正のために

月岡千鶴 永井佑佳

要旨

近年、男女差別是正という言葉が声高に叫ばれている。それは高校生の周りに実際に存在するものなのだろうか。私たちは高校生への意識調査を通して男女差別の実態を調べ、是正の一助となる提案をしたいと思う。

For sex discrimination correction

Tsukioka Chizuru, Nagai Yuka

Supervisor: Okabe Shinji

Abstract

In late years the word sex discrimination revision is demanded loudly. Is it actually an existing thing around a high school student? We check the actual situation of the sex discrimination through the attitude survey to a high school student and think that I want to do suggestion to help the revision.

1.はじめに

誰しもが男女差別という言葉聞いたことがあるだろう。そして実際、男子の理想像、女子の理想像があるのだろう。しかし、ただ性別が違うというだけで行動を制限されなければいけないのだろうか。私たちは違うと思った。そこで、性別によって行動を制限されない社会のために一体何が必要なのかを私たちは提唱したいと思う。

2.研究手法と結果

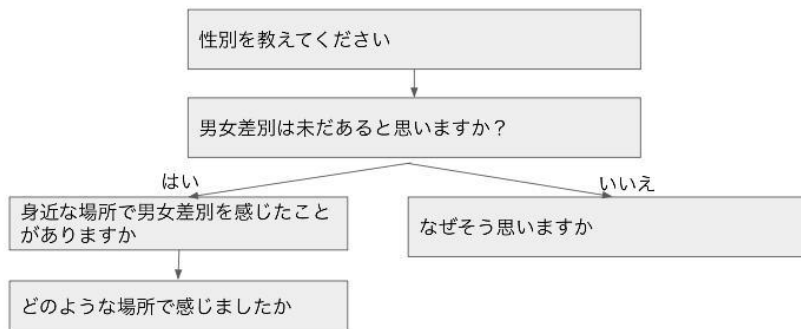
私達は以下の調査を行なった。

- ①高校生の性差別への意識調査
- ②日立市の生活環境部女性若者支援課への訪問

〈①高校生の性差別への意識調査について〉

高校生へ以下の質問を行なった。

- 1.性別を教えてください。
- 2.男女差別は未だあると思いますか？
「はい」と回答→3へ 「いいえ」と回答→5へ
- 3.身近な場所で男女差別を感じたことがありますか。
- 4.どのような場所で感じましたか。
- 5.なぜそう思いますか。

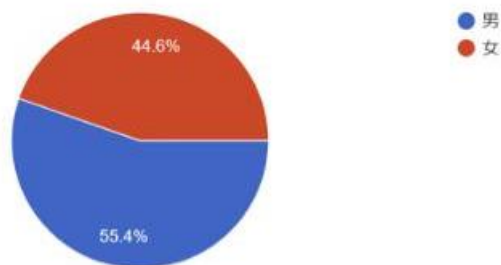


結果

1

生物学的性別を教えてください。

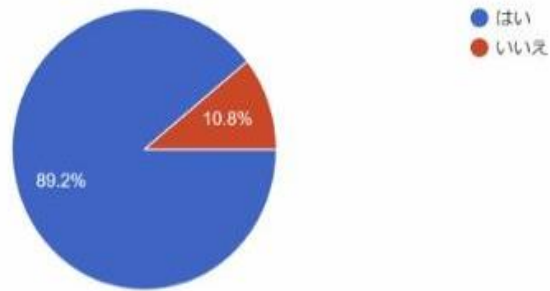
168 件の回答



2-1(1で男と回答)

男女差別はまだあると思いますか。

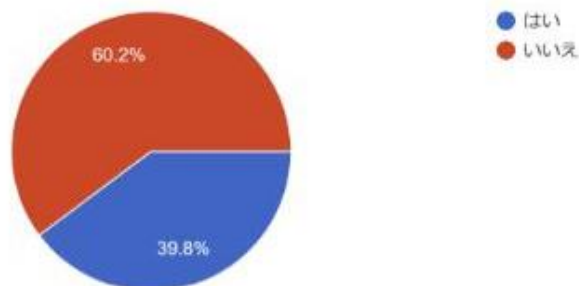
93 件の回答



3-1(2-1ではいと回答)

身近で感じますか。

83 件の回答



4-1(3-1ではいと回答)33件

- ・学校
- ・職業

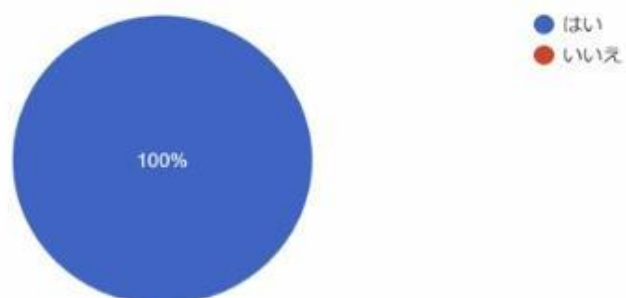
4-2(3-1でいいえと回答)50件

- ・ニュースなどのテレビ
- ・服装

2-2(1で女と回答)

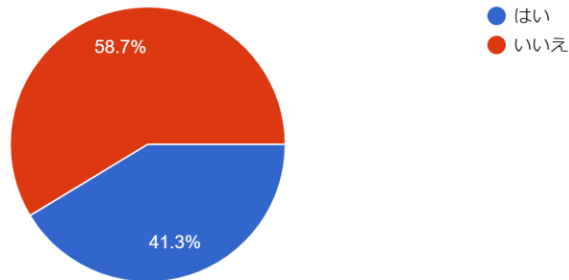
男女差別はまだあると思いますか。

75 件の回答



3-2(2-2ではいと回答)

身近で感じますか。
75 件の回答



4-3(3-2ではいと回答)31件

- ・家庭内
- ・学校

4-4(3-2でいいえと回答)44件

- ・政治的な場
- ・ニュースなどのテレビ

5-1(2-1でいいえと回答)30件

- ・特になし。
- ・今の現状が限界値。

5-2(2-2でいいえと回答)0件

〈②日立市の生活環境部女性若者支援課への訪問について〉

①の調査の結果を受けて、実際に行われている行政の取り組みを調べ、日立市の生活環境部女性若者支援課に以下のことを質問した。

ア パープルライトアップとは？ またその効果について。

イ 支援課で開いている講座で気をつけている表現や発言などはあるのか？

ア について

パープルライトアップとは、11/12から11/25にかけて建物を紫色にライトアップするイベントである。その期間は女性への暴力反対週間とされている。また、パープルリボンは女性への暴力の抑止のシンボルとされているものだ。

なぜこのようなイベントを行うのかというと、ある思想を社会に啓蒙するためには視覚に訴え、広く浅く広報を続けることが、地道ではあるものの着実な効果をもたらすからだそうだ。



イについて

主に話されたのは、

- ・相手の価値観を否定しない
- ・男性が受ける男女差別もある

ということだ。

相手の価値観を否定しないというのは、社会で働きたいという女性を支援するのはもちろん大切なことだが、専業主婦をしたい女性に就労を押し付けないように心がけるというものだ。一番重要なことは、選択肢を行政が狭めないようにすることだそうだ。

男性が受ける男女差別もあるというのは、女性が受ける男女差別に焦点が当てられがちだが、男性が受けるものも存在するということを理解するということだ。

3.理想の社会のために

ここまでの研究で、五感に訴えることが有効なのではないかと伝えてきた。ここでは具体的な方法を提示したい。

《動画やゲームの広告に男女差別にかかわるものを流す》

これも単に動画を流すのではなく、見てもらえるような工夫をする。例えばストーリー性をもたせ、続きを見たいくなるようにする、有名キャラクターの作者に協力していただき興味をひくようなものを作る、など。

☆メリット

- ・不特定多数の人に見てもらえる。
- ・日本のスマホ普及率は60%を超えており、多数の人に広めることができる。

☆デメリット

- ・動画やゲームに関心が無い人もいるので、確実に多くの人に伝えられるかどうかはわからない。
- ・製作するのに手間がかかる。

4.結論

これらの研究活動を経て、私たちは個人の価値観を尊重することが大切だととても感じた。また、その価値観を色々な人にも知らせていく必要があると思った。例えば、働きたいと思う女性もいるけれど家で家事をして過ごしたいと思う女性がいること、家で家事をして子育てをしたいと思う男性がいること、など。

これを知らせるために、私たちは視覚や聴覚等に訴えるのがいいと考える。日立市でのフィールドワークの際に学んだことであるが、誰にでも届くように、見る人聞く人の五感に

訴えることは、何かを広めるという点で有効だ。浅くてもいいからいろいろな価値観を広めていくこと。それによって、“おかしい”という考えを減らしていく。いろいろな価値観が認められる世界。それは同時に一人一人が自分の生き方を選択でき、周りからの差別もなく暮らせる世界なのではないだろうか。

5.謝辞

本研究を進めるにあたり、協力いただいたすべての方にこの場を借りて御礼申し上げます。

6.引用文献・参考文献

日立市の生活環境部女性若者支援課
<https://www.city.hitachi.lg.jp/dept/030000/030200/>